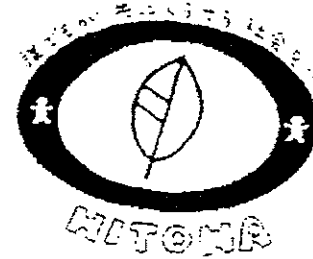


2019年(R元年)

11月

No. 334

ひとはろうしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(題字: 若月由美)

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

- 気候変動の不安に気をもみながらも、食卓には秋の味覚が並びます。農村のありがたみです。
- 9月末に、法人内の人材育成部会が主導となり「支援の質の向上を目指して～障害者虐待防止の取り組みを通じて～」というテーマの人権研修が実施されました。講師は全国でも指折りの取り組みをしている北摂杉の子会の理事長、松上利男さん。ひとの職員及び私も参加しました。正直なところ「うーん」と唸るほどの取り組みを聞かせてもらいました。
- 問題は、今回の研修を我がひとには浸み込ませるにはどうするかです。どんなご馳走も食べても消化不良のままではどうしようもありません。
- 私たちの取り組みに、今回の研修で得たことを常に意識しながら支援に取り組めるかどうか、不安が付きまといまいます。
- それを解消するには、各事業所でそれぞれの活動を踏まえた振り返りを行いながら、ひとの目的は何か、達成するために具体的な目標をどう立てるか、管理者を中心に不断の実践が求められます。
- そして、福祉の目的は、一人ひとりのかけがえのない存在を支えることです。そのためにも虐待はあってはならないことを肝に銘じたいと思います。

(理事長 寺尾文尚)

この夏 社会福祉士を目指す実習生が あわせて4名 来られました。

- 広島国際大学 山崎 志歩さん
実習を重ねると、このジェスチャーはこれが伝えたい。この単語はこういう意味があると分かり、コミュニケーションが取れ、勉強になりました。
- 宮地 慎哉さん
明るいい人が多く、実習しやすかったです。元気をもらいました。
- 長野 翔哉さん
ひとはまりで道下さんのパートナーにたまり、一緒にステージに立てたことが一番の思い出です。



竹内 編集委員の気になる人

菊井さんは、以前は広島市でサボイッチのお店を経営されていましたが、今年4月に安芸高田市に移住され、現在は自宅に工房を構えてお菓子やパン作りをしています。



Mille Sand 店主 菊井美奈さん

安芸高田市に移住されていかがですか？
広島市内に住んでいた頃は、一歩外に出ると路面電車が走っており、「(子どもに)危ない」と声をかけることが多くありました。いつかは田舎で子育てしたいと思い、4、5年かけて準備をしてきました。街の人は忙しないけど、田舎に来てわかることがあります。

これからやりたいことはありますか？
今までは仕事が8割、お母さん業が2割でしたが今は半々のペースです。しばらくはこのバランスでやっていきたいです。また、卵などの生産者にも会いたいと思っています。手届く範囲で心地良いこと、皆が幸せになれるようなことを、現役で続けていきたいと思っています。

菊井さんの作るお菓子やパンは、広島市内のカフェ(広島市中区大町にあるKiki Coffee) ※編集委員が実際に足を運んだ(店舗のみを紹介)レストランに卸されています。ひとのスタッフにもMille Sandのファンがいます。

専門学校 福祉リソースカレッジ広島 酒井典子さん
一方通行のような気がしていましたが、お別れ会では一丸同体のように「私も酒井さんと行く！」と、前に立つ私の傍に居てくれた吉貞さんの姿が印象に残っています。



吉貞

地域とつながる

ひあくらぶに通っているRさんの保育園の運動会を見に行きました。笑顔いっぱい鉄棒や大なわとびをがんばるRさん。毎日の練習の中で自信をつけてきたことが伝わります。最後はダンス。難しいんじゃないかという心配をよそにダンスも見事に覚えて楽しそうに踊っていました。友だちもRさんが立つ位置を間違えていたら、そと手を引くその姿に感動してお母さんと号泣でした。こうやって地域の中で育っていくRさんの姿を見て、地域とつながることの大切さを改めて感じました。そして、ひあくらぶの役割は何かを改めて考え教えられる運動会でした。(ひあくらぶ 舟田和世)

みんなに助けられて

夏の忙しさが終わり、ほっと一息する暇もなく、9月は消費税UP、軽減税率等々の対応に追われる日々でした。10月からのスタートにあれもこれもと脳内パニック。そんな中でも、午前10時になればいつもの活重が始まります。「おはよう」とみんなが出勤。製造のきららの仲間(シール貼り、材料ばかり、お店のきららの仲間はレジ、洗濯...)と一人一人がいつものペースで活重を行います。午後3時半になると「さよなら」と帰っていくみんな。元気にマイペースに「いつものように」過ごす姿に、業務に追われてきららの仲間との時間をしっかりと取れなかった申し訳なさ、有り難さを感じた秋でした。(ひとは工房 常冒糸子)

この縁を大切に!

長く特別支援学校の教諭を勤め、定年退職した後、ひとはに縁あって働き始めて2年目になりました。縁とは、12月の頃のあけみさん、あいつと出会ってから13年30年後、再び関わりを持つようになったからです。他の事業所にも10代の頃を知っているきららの仲間がいます。みんな若い時の面影が残っていて、最初はタイムスリップした感覚になりました。修学旅行と一緒に行ったなと思い出します。きららの仲間との関わりを通じて、私自身も自分らしく生きていける気がしています。(ひとは作業所 中村誠)

スケジュール確認

林出さんは、いつも私のスケジュールを気にかけています。「行くん? (夕方に、私がホームから長屋に行くので、その確認)」「まんま? (ご飯食べてきた?)」「8時? (私が長屋からホームに戻ってくる夜8時の確認)」私が出勤した時や、長屋から戻ってきた時は大喜びで歓迎。うれしい限りです。林出さんの「スタッフ全員の予定を気にかけて確認する内の1人」ではありますが、それを感じさせない声かけと大喜びに、いつも元気をもらいます。(共同ホームひとは 柴坂尚樹)



1日1日の付き合い

今年度から長屋に就いた僕は、主に西本邸で仕事をしています。大迫直樹さんが入浴時に、身体の洗い残しを声かけしたり手伝ったりしながら、ひとはまつりの進行状況を聞いていました。企画のスケジュールを水附美江さんと度々話し合ったこと、和高醸造の大坪さんにDJをお願いしたこと。きららの仲間が主体となってやる! ということに思いをぶつけようとする姿勢が私に十分伝わりました。今年は無事開催することができ、ひとはのことを新たに知ってもらう良い機会になったのではないかと思います。まつりが終わった後は充実した表情の大迫さんでした。(ひとは長屋 立野兵治)

※長屋とは「グループホーム ひとは長屋」のことです。

反省(編集)後記

調子の良い時の大迫さんのマシマシ。それが入浴中ときき耳を疑った。今更深夜までシャワー浴、時戻らと思ってた! 新しい長屋で彼はスタッフと入浴している! 数ヶ月に一回「さあ片づけよう」と本人に話し合いを促す。得ての部屋片づけ...。現在担当の立野さんは、日々「おおと、ちよとだけ」都度ミを拾う。長い付き合いで「マ」と呼ばれるのを良いことに、大げさな力加減の指摘(か)でしてほった私。マはもう卒業じゃね! 立野順子